

特集

ぶらり大阪“景観”ウォーク 東住吉区 (Web) 編 第12回 まちあるきプロジェクト



シミュレーションの様子 (大阪建築会館会議室)



編集会議の様子 (トチオ構造設計室)



撮影した動画を現地でチェックする様子



撮影担当中山氏 準備の様子



撮影の様子



予告編動画公開中!

下記 QR コードからご覧ください



2021年7月に正式リリース!

～ 第12回 まちあるきプロジェクトワーキンググループのメンバー (敬称略) ～

西埜 彰一 (第7支部) リーダー
富永 千弘 (第2支部)
小玉 順 (第3支部)
渡辺 健志 (第3支部) チラシ
辰巳 茂 (第5支部)

大成 洋司 (第6支部) コース
栃尾 実 (第7支部) 動画編集・紙芝居
水野 雄三 (第7支部)
高 好弘 (第8支部) 議事、渉外
中山 卓三 (第8支部) 動画撮影

大阪市の指定する都市景観資源を建築士の視点で紹介する“まちあるき”企画「ぶらり大阪景観ウォーク」。2008年から始まり、これまで大阪市内の11の区や地域を紹介してきました。毎年大勢の方にご参加いただいておりますが、2020年春に開催予定だった“東住吉区 編”はコロナ禍で延期となり、今年も例年のような現地開催が困難な状況です。そこでワーキンググループメンバーのみで案内する“まちあるき”動画を作成しWeb配信することになりました。今回の特集は、そのガイドブックです。桜満開の長居公園をスタートし、東住吉区の歴史ある街並みをめぐり、15カ所の景観資源等を紹介するコース。動画は協会ホームページからアクセスするかたちでYouTubeにアップ予定で、7月の公開を目指して現在編集作業中です。撮影・編集ともワーキングメンバーで行っておりますので、素人感満載の動画ですがご視聴いただけると幸いです。

取材：荻窪 伸彦/正木 忠/北村 ひとみ

ぶらり大阪 “景観” ウォーク 東住吉区 (Web) 編

広報・まちづくり委員会 まちあるきプロジェクトワーキンググループ

りんなんじ
臨南寺

そうとうしゅう

臨南寺は曹洞宗の寺院で、約370年前の江戸時代はじめ（1645年）に、天草代官などを歴任した鈴木三郎九郎重成公が先祖の菩提を弔うために創建したお寺です。隣接のJRの駅も戦前までは臨南寺駅という名称で、長居公園も昭和初期の計画当初は『臨南寺公園』という計画名称でした。

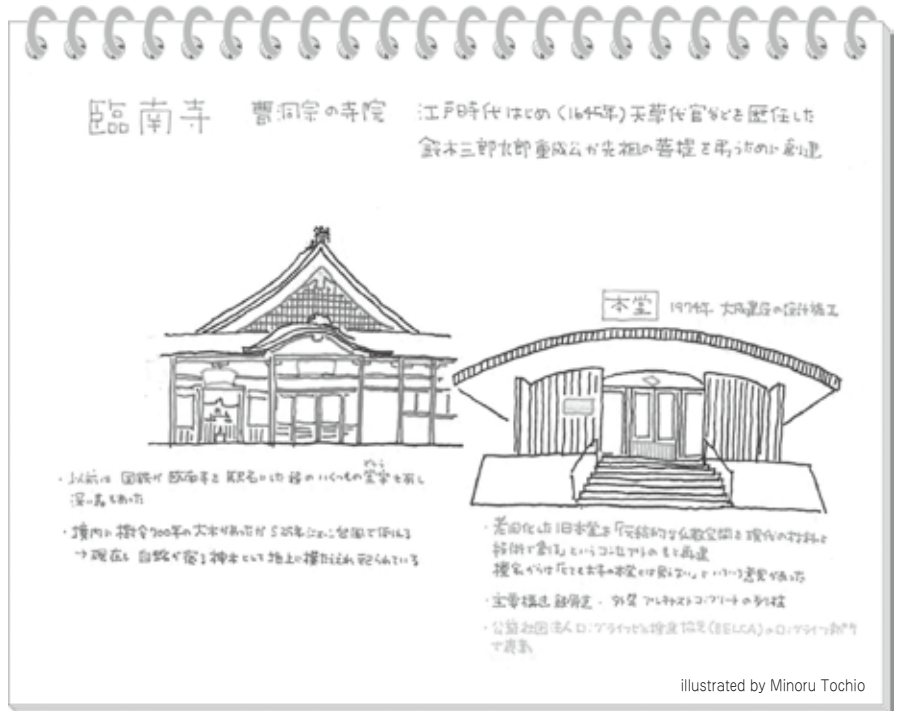
臨南寺本堂は、老朽化した旧本堂を『伝統的な仏教空間を現代の材料と技術で創る』というコンセプトのもと再建されました。大成建設の設計施工で1974年に竣工しています。主要構造は鉄骨造で外壁はプレキャストコンクリートの列柱となっています。耐久性や耐候性を考慮した材料の選定や設備維持への配慮、シンプルな空間構成等、メンテナンスが少なく手のかからない建物として計画されており、公益社団法人ロングライフビル推進協会（BELCA）のロングライフ部門で表彰を受けています。また、かつて近くに「競馬場」や「厩舎」があったことを伝える痕跡とされる「馬頭観世音菩薩」の供養塔があります。1931年に建立され、レース中や厩舎で亡くなった馬を供養しています。案内人は監寺の大賀義信さんにいただきました。

ながいこうえん

長居公園（都市景観資源）

総面積65.7haの大阪を代表する総合公園で、長居公園全体が大阪市の都市景観資源に登録されています。歴史は、1928年、大阪市が当時としては画期的な野球場や陸上競技場を備えた総合公園としての整備計画を決定しました。計画策定後、計画地の農地等の買収が進められ、1944年4月1日に『長居公園』として開園しました。

太平洋戦争後の1948年には園内に市営競馬場として「大阪競馬場」が開場、1950年には市営競輪場として「大阪中央競輪場」が開場しました。しかし、1955年に農林、通産大臣の「競馬等の開催を土日祝日開催に限る」という表明

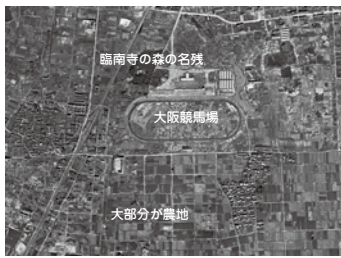


臨南寺の聞き手・高好弘氏

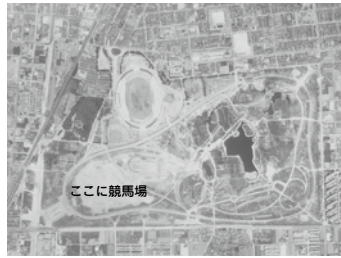
供養塔の前で案内人・大賀義信さんのお話を聞く



illustrated by Minoru Tochio



昭和 23 年 11 月



昭和 39 年 5 月
長居公園の歴史



平成 29 年 4 月

(写真：国土交通省「国土地理院」ウェブサイトの空中写真データより作成)



ヤンマースタジアム長居の
案内人・大成洋司氏 聞き手・辰巳茂氏



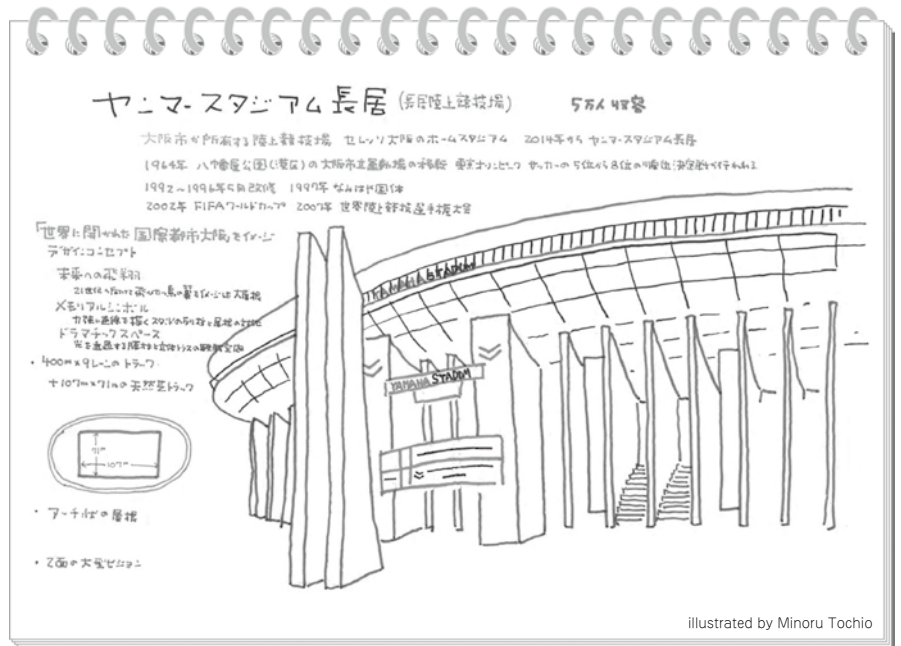
撮影：中山卓三氏

により、大阪競馬場は開場から11年後の1959年に閉場、大阪中央競輪場もその3年後の1962年に閉場しました。

その後、長居公園は本格的な運動公園としての整備を開始しました。競輪場跡に長居陸上競技場が完成したのを皮切りに、複数のスポーツ施設・文化施設が整備され、1993年の長居第2陸上競技場の完成をもって施設整備は完了となっています。2009年から公園内の施設全体の指定管理者制度^{*1}が導入され、2021年度からは、わくわくパーククリエイティブ（ヤンマーホールディングス100%出資の子会社）を代表企業とした計6グループで構成される「わくわくパークプロジェクトチーム」が、管理運営を行っています。

ヤンマースタジアム長居

長居陸上競技場は大阪市が所有する陸上競技場で、1992年より5年後の第52回国民体育大会（なみはや国体）向け全



面改修工事に着手し、1996年5月に改修工事が竣工。予定通り翌年のなみはや国体のメイン会場として使用されました。その後2002 FIFAワールドカップ、2007年世界陸上競技選手権大会などの国際的ビッグイベントが開催されています。また、セレッソ大阪がホームスタジアムとしても使用しています。2014年からはネーミングライツ^{*2}の導入により、「ヤンマースタジアム長居」という名称になりました。過去には、全国高等学校サッカー選手権大会のメイン会場として使用されるなど、大阪におけるサッカーのメインスタジアムとしても活用されています。

【施設概要】

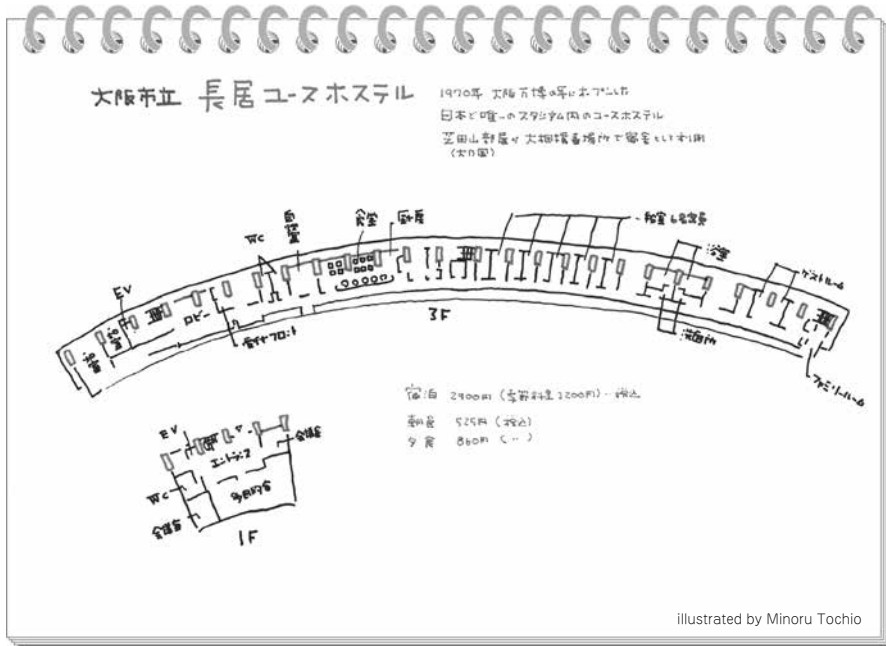
- ・400m×9レーンのトラックと107m×71mの天然芝フィールドを有する日本陸上競技連盟や国際陸上競技連盟公認の陸上競技場兼球技場。
- ・「世界に開かれた国際都市大阪」をイメージした次のデザインコンセプトにより設計された。

- **未来への飛翔**—21世紀へ向けて飛びたつ鳥の翼をイメージした、弧を描いた大屋根
- **メモリアルシンボル**—力強い直線を描くスタンドの列柱と屋根の優しい曲線との対比
- **ドラマチックスペース**—光を透過する膜材と立体トラスで覆われた躍動感あふれる観戦空間。
- ・スタンドは全周一層式で、メインスタンド側とバックスタンド側には照明設備と一体化したアーチ状の屋根で覆われている。
- ・2面の大型ビジョン（南側は改築後の1996年設置。北側はもともと改築後電光掲示だったが、2015年に大型ビジョンに変更）がある。

■「公園」の概念

「公園」の概念はイギリス市民社会の成立と同時に進行で形成されました。良好な環境を享受する権利や散歩などの運動を行う権利が市民の持つ当然の権利（市民権）として主張され、王の私的な狩猟園地（Park）を公衆

^{*1}指定管理者制度：地方公共団体やその外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、企業・財団法人・NPOなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度。
^{*2}ネーミングライツ：人間や事物、施設、キャラクターなどに対して命名できる権利。1990年代後半以降、スポーツ、文化施設等に企業名を付けることがビジネスとして確立した。



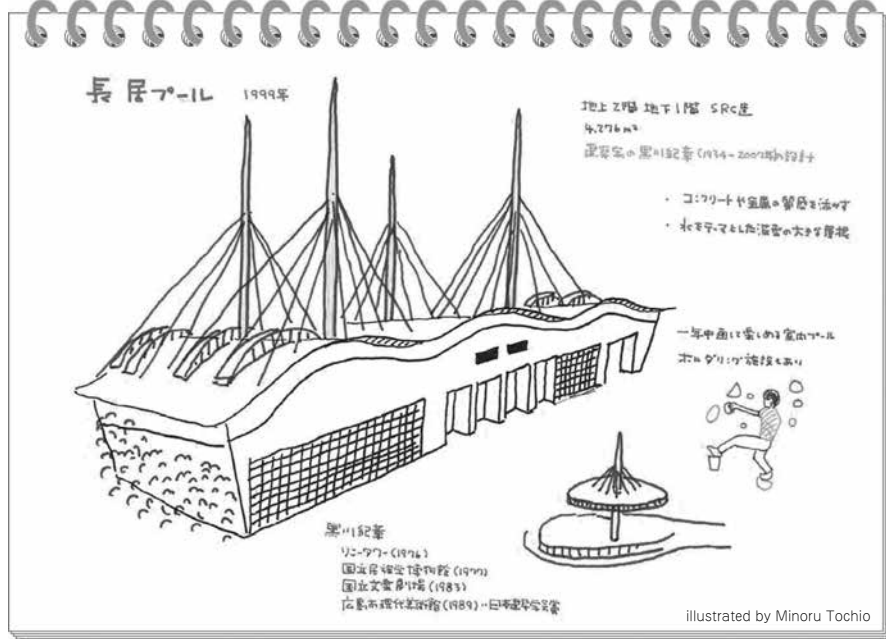
長居プールの案内人・大成洋司氏 聞き手・辰巳茂氏



水をテーマとした波型の大きな長居プールの屋根



撮影の当日は桜が満開でした



の利用に開放したものが公園 (Public park) の始まりといわれています。日本の市街地にある遊具があるような「公園」は英語では playground といいます。

■日本の「公園」の歴史と制度

江戸時代には、社寺境内や馬場で鑑賞樹木を植栽し見世物小屋や射的、茶屋などが出店し賑わいをみせていました。明治に入り、神戸の外国人居留遊園、横浜の山手公園などが公園としてありましたが、居留地の外国人専用のものであり日本国民にとっての公園ではありませんでした。日本で初めて公的な制度としての公園ができたのは、1873年の「太政官布告第16号」において、旧社寺地等を接收し「公園」と評したのが始まりです。この布告で1873年3月25日国内最初の5公

園：都市公園 (上野・浅草・深川・飛鳥山・芝) が正式指定され、1887年頃までに約80カ所の公園が全国で設置されました。

■長居ユースホステル

1970年大阪万博の年にオープンしました。スタンドの下の空間を有効活用した、日本で唯一スタジアムの中にあるユースホステルです。1996年には、大阪なみはや国体の開催に向けてリニューアルされています。ユースなので相部屋のドミトリータイプが中心ですが、ツインルームやファミリー向けの和室も用意されています。ドミトリーで一人2,900円と比較的リーズナブルな料金で泊まれる施設となっています。大相撲春場所の際

には、芝田山部屋が宿舎として利用しています。

■長居プール

長居プールは1999年に竣工した市営のプールで設計は、建築家の故・黒川紀章氏です。水をテーマとした波型の大きな屋根が特徴となっています。夏用の屋外プールと、1年通して楽しめる25mの室内プールに加え、ボルダリング施設やバレエやダンス教室等を行うスタジオを備えています。

■「長居」の起源

「長居」という町 (村) の名は、もともとあった堀村、前堀村、寺岡村の3つの村が1894年に1つに統合されたとき「長居村」と名付けられたのが最初でした。その由来は、当時同じ場所にあった貯水用の池・大御池の別名である長居池から取ったとされています。ただし、今から7~800年前 (鎌倉時代) 頃に、現在の長居付近を詠んだ古い歌に「長居」、「長為」、「長井」という名が出ており、その



「百済」の地名

頃からすでに長居と呼ばれていました。

■「百済」の地名

東住吉区内での百済の地名は1889年に鷹合・砂子・湯谷島・中野の4カ村が合併して、南百済村とされたことにちなみます。現在は南百済小学校や百済公園、百済大橋などにその地名が残るのみで、行政上での地名はなくなっています。日本書紀(続)などによると、百済が唐・新羅との「白村江の戦い」(663年)の敗戦で完全に滅んだ後、日本に残された百済の皇子を難波に住ませたとあります。以後、天武天皇、持統天皇の時期には百済王として優遇されており、百済人が皇子を頼って続々と亡命してきたので、この一帯を百済と呼ばれるに至ったようです。天王寺区堂ヶ芝から細工谷(上本町の南側、鶴橋～桃谷の付近)には百済寺跡、百済尼寺跡とされる遺跡があります。一族の住む場所が次第に物流や交通の要所となるに及んで、天皇は一族を枚方の地に移住を命じ、難波の百済は消滅しました。枚方市禁野1丁目にある遺跡は、百済王族末裔の墓であるとされていて、百済寺跡は国指定の史跡となっています。

その他に、関西本線東部市場前駅に隣接し「百済貨物ターミナル駅」、大阪市立南百済小学校があります。また、平野川は古名を「百済川」ともいいました。

酒君塚古墳 (都市景観資源)

百済王の一族であった酒君のお墓です。

お墓が公園で、山の高台がそのまま滑り台になっています。

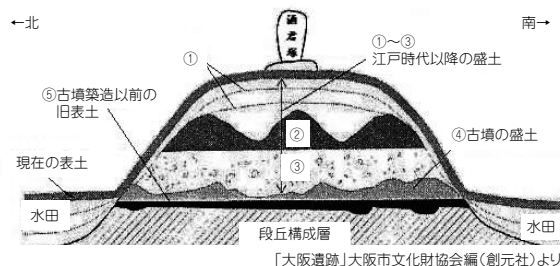
酒君は日本書紀書に出てくる人物で、仁徳天皇の時代の人物でした。天皇が、

紀角宿禰という日本の身分の高い行政官を百済に派遣させたのですが、その際に酒君が紀角宿禰に対して無礼をしたそうです。百済王はそのことに対して怒り酒君を捕らえて日本に送りました。酒君はその後おとなしくして、しばらくして天皇から許しをいただきました。

355年頃、依網屯倉という人が不思議な鳥を捕まえ、天皇に献上しました。天皇は、酒君に「この鳥は何という鳥だ。」と尋ねたところ、「この鳥は「くち」と言って百済にはたくさんおります。飼いならすといろんな鳥を捕ってください。」と答えました。日本名で鷹です。天皇は、酒君に鷹を預けたところ、鷹が酒君に慣



illustrated by Minoru Tochio



酒君塚古墳の断面図



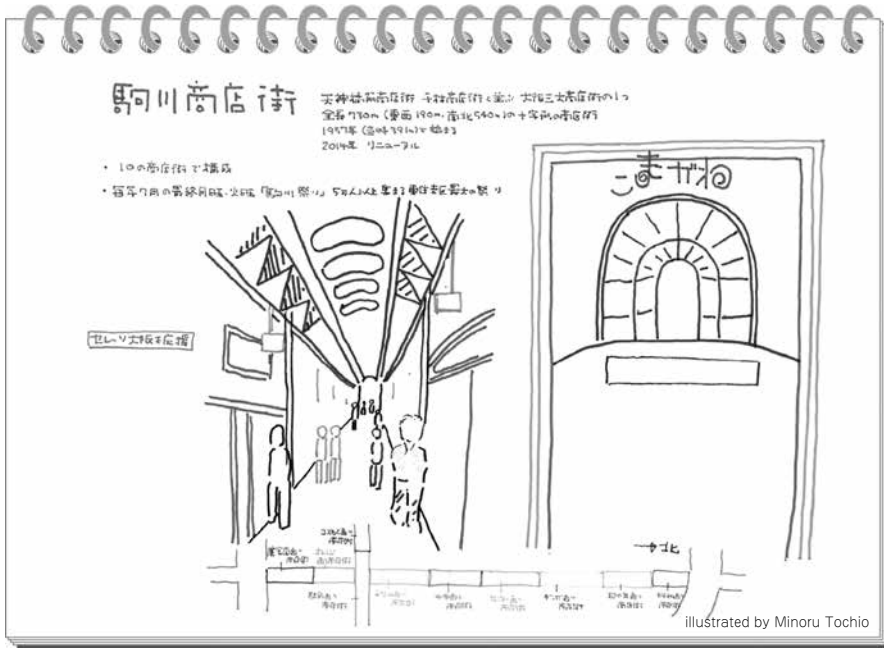
酒君塚古墳の案内人・栃尾 実 氏 聞き手・水野雄三 氏



酒君塚古墳の高台がそのまま滑り台に



酒君塚古墳の石碑



駒川商店街の案内人・栃尾 実氏 聞き手・水野雄三氏



駒川商店街のアーケード

れ、鳥を捕るようになり、再度天皇に献上されました。その由来から、このあたりの地名が鷹合となっています。東住吉区東部にある鷹合・桑津・山坂の一带には、かつて大きな古墳群があったことが、江戸時代の地籍図や古墳にまつわる伝承などから推定されています。

この酒君塚古墳は、近年の発掘調査によって、現在の墳丘の盛土下にかつて平塚と呼ばれた長径35m以上、高さ2m前後の古墳の墳丘があったと確認されました。江戸時代に行われた盛土によって現在の形が形成されたようです。出土した円筒埴輪から築造時期は4世紀末で、このあたりでは最も古い古墳であることも明らかになっています。

こまがわしょうてんがい 駒川商店街

駒川商店街は、大阪三大商店街（ほか天神橋筋商店街と千林商店街）の一つで、全長730m（東西190m、南北540m）の十字形の商店街です。針中野駅に隣接し、「なんでも揃う、値段が安い、買いやすい」など評判でお客さんも多く、年中賑わっています。

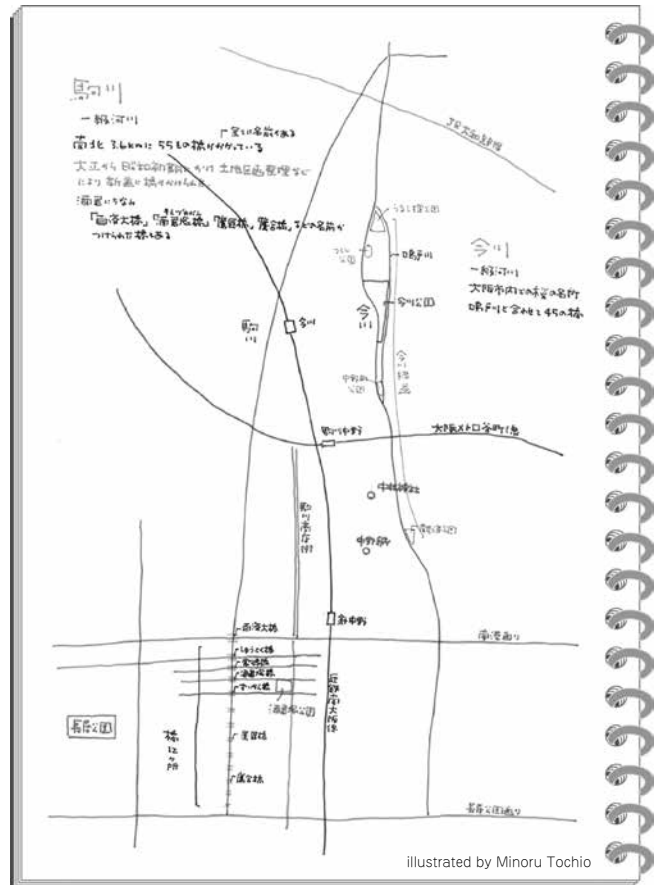
10の商店街で構成され、南から鷹宮南通り商店会、オレンジ通り商店会、駅前通り商店会、コスモス通り商店会、みなみ通り商店会、中央通り商店会、センター通り商店会、ギンザ通り商店会、日の出通り商店会、昭和通り商店会です。

駒川商店街は、昭和初期に中野市場（現在は廃業）を中心として商店が集まりましたが、戦後から高度経済成長期に

かけて店舗の数が増え続け、現在の駒川商店街へ発展しています。1957年に最初のアーケード（391m）ができました。2014年に、現在のようにリニューアルされています。

アーケードで見て楽しいのは、屋根形状がそれぞれ違うところです。駒川商店街の屋根も新しいデザインです。柱の位置が左右で違うところは、一般の建築物とは異なるところです。もともと公道であったところに雨よけ・日よけのために屋根を造ったもので柱の位置は、商店の境となっているため、左右の位置が違います。アーケードは、アーチやヴォルトの屋根が柱によって支えられています。世界的には古代ローマ建築から発展したようです。

駒川商店街で、毎年7月の最終月曜・火曜の2日間行われる“駒川祭り”は、



5万人以上が集まる東住吉区最大のお祭りです。さまざまなイベントが開催され、子どもたちによる“よさこい踊り”や、吉本興業所属のお笑い芸人による漫才披露など“駒川祭り”ならではの催しがたくさんあります。また、駒川商店街はサッカーのセレッソ大阪を応援しています。

■鉄道の高架(近鉄南大阪線、JR阪和線)

東住吉区内には近鉄南大阪線とJR阪和線の高架があります。高架は、踏切をなくす必要から作られる場合が多いです。都心に通勤する人が増えると電車の本数も増えるので、ラッシュ時には“開かずの踏切”ができてしまい、このあたりも渋滞や排気ガスが大きな社会問題になっていました。この高架は「近鉄南大阪線連続立体交差事業」として阿部野橋と針中野の間の約3.4キロを高架にし、16カ所の踏切をなくしています。高架化事業はたいへん大がかりで、鉄道会社だけではとても無理なので、都市計画として実施されます。

高架化事業は、用地の買収も必要なことありますが、工事自体も電車が動いていない夜間に行うことが多く、線路の切り替えも段階的に行う必要があるため、工事期間が大変長くなってしまいます。この高架も昭和51年の都市計画決定から平成元年の事業完了まで約14年をかけて作られました。その前の準備段階を入れると20年はかかっています。全体の事業費は、約458億円かかったとのこと。

はりなかのなかのはり
針中野中野鍼

中野鍼は782~805年頃(平安時代)に設立されました。屋号は中野降天鍼療院です。平安時代から一子相伝を守り、男児に恵まれない時は女性も当主として鍼灸術を習得し現在に至ります。ここは平安初期に弘法大師が布教の途上、当



中野鍼



中野鍼の案内人・辰巳茂氏 聞き手・大成洋司氏



illustrated by Minoru Tochio

家に宿を借りたお礼として、当時もっとも進歩した鍼術とツボを示す「遂穴偶像：大人と小人の丈1m弱の木像」2体と金針を授与されたとのこと。

中野鍼の門前は、焼杉(下見板張り)の黒と、漆喰(腰壁)の白がきれいなコントラストを見せています。

うだつや小庇もきれいに漆喰で塗られています。看板には、“なかの鍼”と彫られています。門は屋根付きで、むくりの付いた瓦葺で、神社、仏閣のようです。懸魚もあります。京都の東寺慶賀門にも懸魚がありますが、干物のように5匹も吊るされています。懸魚は、塔の上の水煙や屋根瓦の端にある鴟尾と同じく火伏のおまじないといわれています。東寺の懸魚をみると、大昔は本当に魚を吊っていたのではないかと想像してしまいます。



中野鍼は歴史的建築物として国の登録有形文化財に登録されている

また、豊漁祈願や神様へのお供え物のようにも思えます。

平安時代から続く中野鍼ですが、南北朝の頃には足利軍の戦火で屋敷を焼失しました。しかし弘法大師伝授の木像と鍼、漢方薬書は無事に残り、現在まで中野家に伝えられているそうです。古地図では宝暦3年(1763年)摂州平野大絵図に中野村小児鍼師と記されているのが確認できるそうです。明治期には41代目当主が医師の免許を取得され、西洋医学も取



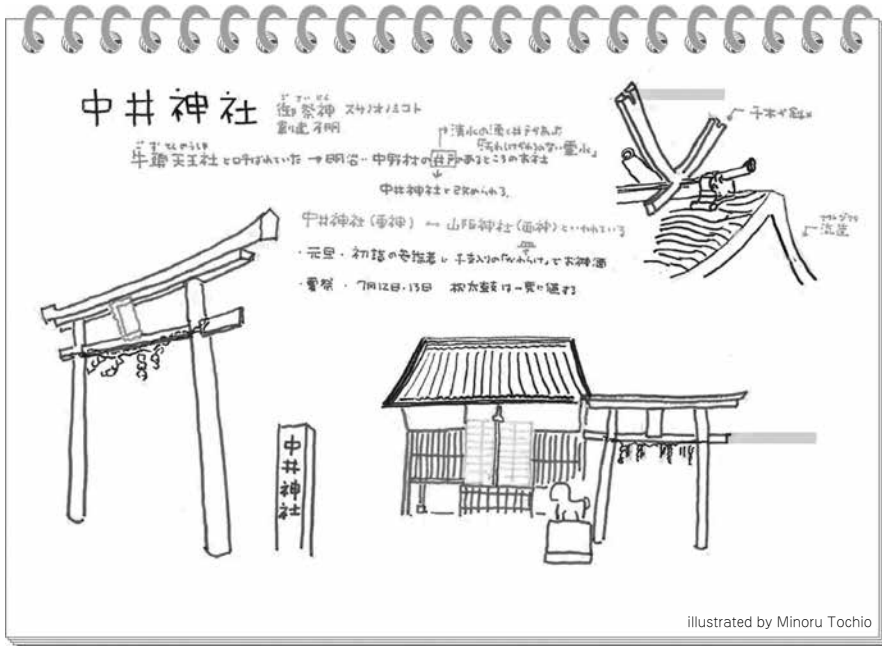
東寺慶賀門の懸魚



薬師寺東塔の水煙



東大寺の鴟尾



中井神社の案内人・辰巳 茂氏 聞き手・大成洋司 氏



中井神社の神門



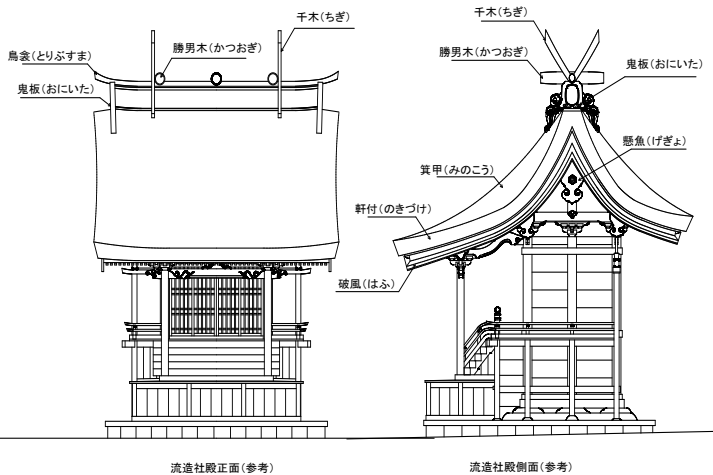
中井神社の御神木

り入れながら独自の鍼法を築かれ、近畿一円から“中野鍼参り”として1日500人以上の人々が殺到し、屋敷内には遠路の来館者を泊める宿舎も設けられました。

大正3年、南海平野線が開通したときには中野駅から鍼院まで7力所の道辻に石の道標が建てられました。その41代当主は大阪鉄道（現在の近鉄南大阪線）の開通にも尽力され、そのお礼として大正12年開通のとき、駅名を“針中野”としたといわれています。

なかいじんしゃ 中井神社

中井神社の御祭神は素戔鳴尊です。創祀・創建年代については記録にありませんが『日本三代実録』（901年）という平安時代の歴史書には摂津の国「田辺東神」と記されており古くからこの地に鎮座されていたことがわかります。この東神に対し西神は田辺の山坂神社です。手水の奥に井戸が見え、しめ縄が掛かっているのは御神水です。現在、社殿は改修中です。境内の大木は大阪市の保存樹林に指定されていて、白龍社の御神木（榎）があります。昭和9年の台風で幹の



流造社殿正面(参考)

流造社殿側面(参考)

流造社殿参考(株式会社 鳥羽瀬社寺建築より提供)

途中から折れて今は根元のみとなっています。この榎には、世に異変のある時必ずや夜中に轟音を発するといひ伝えがあります。拝殿は、入母屋造の瓦葺の建物で、拝殿の後ろの二間の流造・銅板葺の本殿が鎮座しています。外削の置千木となっていて、榎木(勝男木)が3本乗っています。千木とは、屋根の両端で交差された部材ですが、交差した部材の切断面が垂直に削ったものを外削、水平に削ったものを内削と呼び、外削を“男千木”内削を“女千木”ともいふこともあります。お祀りする神様が男神か女神かで区別しているという説もありますが、神社庁の回答ではそうとも限らないそうです。榎木は屋根の棟の上で直角に置かれた部材で、もともとは重しの役目をしていたものといわれています。古事記の雄略天皇の条でも「榎木を上げて舎屋を作る家あり」とあるように形が榎節に似ていることで、

この呼び名が付いたものと思われます。榎木に関しては奇数なら男神、偶数なら女神を祀るとの説も聞かれます。榎木の本数では平安時代に、大社8本、中社6本、小社4本という定めがあったそうですが、現在、伊勢神宮内宮は10本、出雲大社は3本、春日大社は2本となっていて、これもまた俗説のようです。

現在、中井神社と呼ばれているのは明治の初めに名前が改められたもので以前天王社とも呼ばれていました。改名にあたっては中野村にあり「社前に湧く井戸を汚れなき霊泉として大切にしていた」という伝承から名付けられたようです。

井戸を大切にしていたことや白龍社があることから水神様を祀る神社でもありますが、天王社とも呼ばれていたことから、いつからかは疫病退散を願う牛頭天王もお祀りされたものと思われます。祇園祭りもこの牛頭天王を祀り疫病退散をお願いし御霊会を執り行ったのが起源とされているそうです。コロナ禍なので、私たちもここで疫病退散・コロナ退散をお願いします。



佛願寺の案内人・小玉 順氏 聞き手・辰巳 茂氏

ぶつがんじ りんかくじ 佛願寺・林覚寺

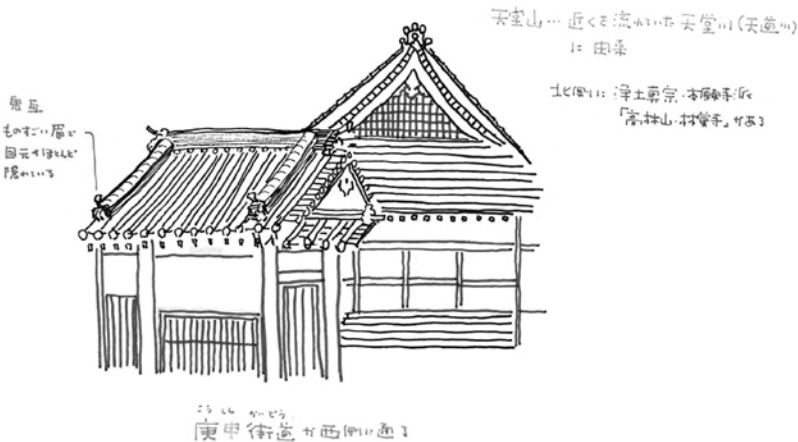
中井神社の北側に隣接して、2つの寺院があります。1つは浄土真宗仏光寺派に属する「天堂山佛願寺」。2つ目が、その北側少し東に入った所にある浄土真宗本願寺派の「高林山林覚寺」です。

佛願寺は、今から422年前の慶長4(1599)年(関ヶ原の合戦の前年)の開基と伝えられています。天堂山の山号は昔、近くを流れていた天堂川(天道川)に由来しているのではないとも言われています。山門の鬼瓦はすごい眉で目元がほとんど隠れています。鬼瓦は、5~6世紀頃から仏教の普及とともにお寺が建てられて、その屋根として瓦の利用が増えていったようです。屋根の棟の端をかくすために置く鴟尾と呼ばれる瓦があります。日本に瓦が伝わってきた時からこの鴟尾が使われていました。鴟尾の起源については現在のところ定説はないのですが、破邪と防火を意味するものらしく、日本最古の鴟尾は唐招提寺の金堂西側の物で、奈良時代の創建当時のものが平成の大修理が行われるまで、実際に屋根の上がっていました。鴟尾はその後、鯨や鬼瓦等に発展し、単に端を隠すだけでなく、装飾用として使われるようになりました。鯨は雨をよく降らす想像上の海魚がモデルと言われ、防火のまじないや水難を防ぐとして、寺院や城の天守などに使われました。鬼瓦は、時代とともに顔の作りも変化してきました。角のついたリアルな鬼の面は江戸時代ごろからで、古くから魔除けとして建物を守ってきました。

こうしんかいどう 庚申街道

佛願寺前の道は、古くから存在する街道で、庚申街道と言われています。庚申信仰の発祥地の四天王寺・庚申堂への参詣道で、四天王寺南大門前を起点とし

佛願寺 (天堂山・佛願寺) 慶長4年(1599年)開基:浄土真宗・仏光寺派



illustrated by Minoru Tochio

こうしんかいどう 庚申街道



illustrated by Minoru Tochio

て、南へ庚申堂前を過ぎ、平野区のながよしかわなべふるいちかいどう長吉川辺町で古市街道へ合流し、明治橋北詰に至るとい街道です。

庚申信仰とは、中国の道教に由来し、六十日毎の庚申の日の夜、体内に住む“三尸の虫”が抜け出し、その人の罪業を天帝(天地・万物を支配するという神)に告げ、天帝は報告によって、その人の寿命を決めるといわれ、“三尸の虫”の行動を封じることで広まった信仰です。

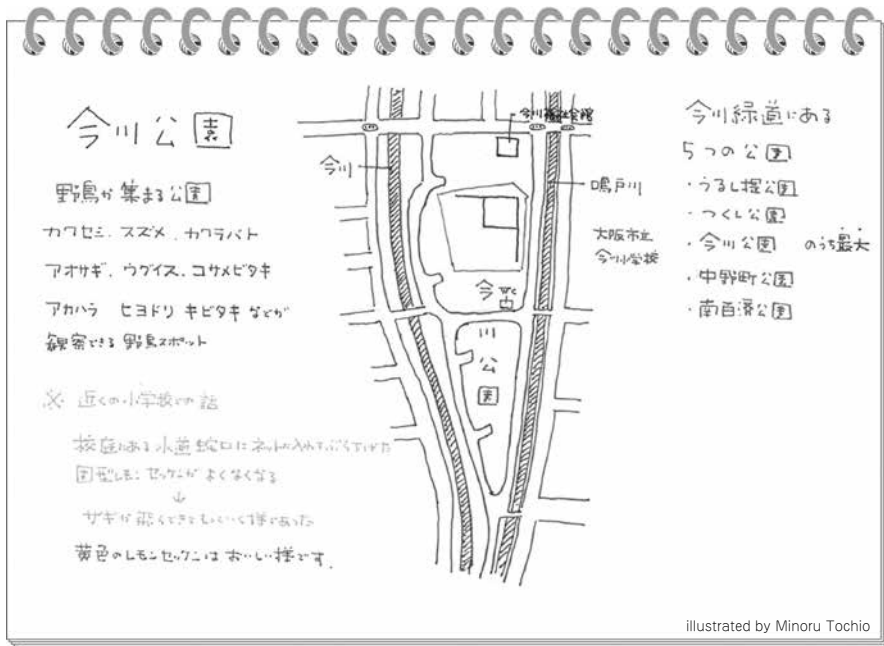
四天王寺・庚申堂には、“三尸の虫”を押さえる青面金剛童子が祀られています。飛鳥時代に疫病が流行り高僧が祈ったところ、庚申の年の正月7日、庚申の刻に青面金剛童子が現れると疫病が退散したということから、庚申の日に青面金剛童子に祈れば願いがかなうという信仰

がはじまりました。

1988年、近鉄南大阪線の立体交差事業完成を記念して近鉄と地元が「庚申街道を守る会」の起案で、近鉄大阪阿倍野橋駅東の松崎口にあるサンクンガーデンに街道の歴史碑が残されています。また、北田辺6丁目にも地元有志による記念碑があります。

いまがわりよくどう 今川緑道(都市景観資源)

今川緑道は東住吉区の都市景観資源に登録され、また『東住吉100物語』に選定されています。緑道は今川沿いにあり、南港通りを挟んで南北につながり北は東住吉区の桑津から南は同区中野まで約3キロ程続き、5つの公園が途中にある緑道です。



今川緑道の案内人・渡辺健志氏 聞き手・大成洋司氏



四季折々の自然が美しい今川緑道

近に感じて、この悲劇が繰り返されな
いことを願って、田辺の跡地に模擬原爆
追悼碑がつくられ、2019年に恩楽寺の

南港通りより南側250m程の間は現在、
桜並木とユキヤナギが美しい緑道ですが、
戦前は松並木でした。そして北側の緑道
は戦前、うるし並木で有名な“うるし堤”
がありました。城連寺村の『堤奉行宛恐
書』(1715年)の中に「うるし堤」の
美しさを述べる文言があり、その頃から
すでに漆が広く植えられていたことがわ
かっています。

戦後は、新しく梅、桃、桜、雪柳等の
花や樹木が植えられ、戦前とは趣を変え、
花に溢れる堤として生まれ変わりました。
例年はこの時期、花見の宴会等の光景が
見られますが、今はコロナ禍なのでちょ
っと自粛している感じです。

季節ごと美しい花や可愛い花が迎えて

くる緑道で途中に多くの公園があり、野
鳥が多く集まる所としても注目され、皆
が楽しめる憩いの場となっております。

おんらくじ
恩楽寺・模擬原爆碑

長居公園東筋通りの交差点を渡ったと
ころに、500年以上歴史のある真宗大谷
派の恩楽寺があります。

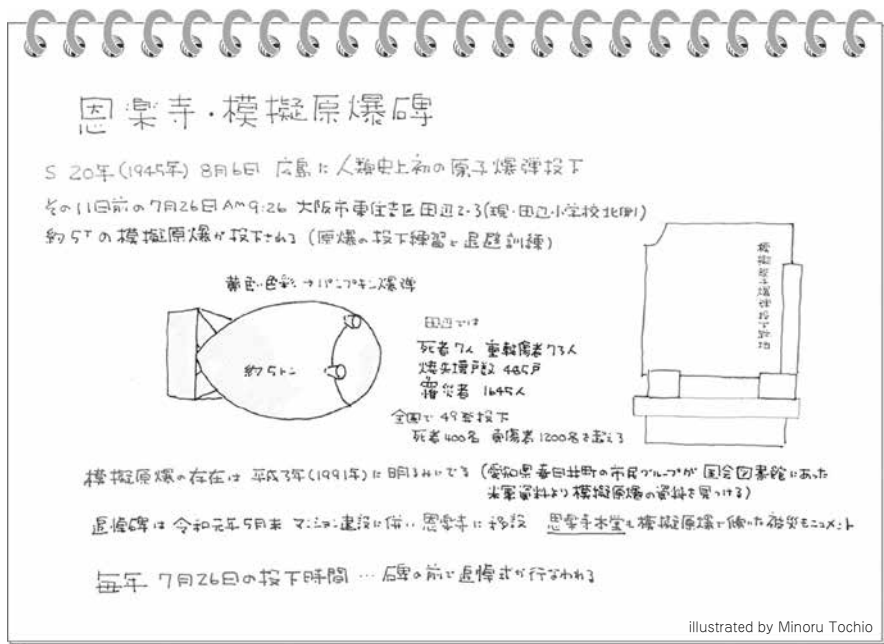
恩楽寺の山門には、模擬原爆碑があり
ます。模擬原爆の存在が歴史の明るみにな
ったのは1991年でした。先の大戦中、
原爆投下を成功させるため長崎に投下され
た原爆と同型、同重量の巨大爆弾が製
造され日本への空襲の中で訓練として投
下されました。こうした隠れた事実を廣
く知らしめ、広島・長崎の原爆投下を身



恩楽寺



恩楽寺の案内人・冨永千弘氏 聞き手・高好弘氏



1948年の頃、模擬原爆投下の爆風でできた空き地がある
(写真：国土交通省「国土地理院」ウェブサイトの
空中写真データより作成)



法楽寺にある“平成の三重塔”



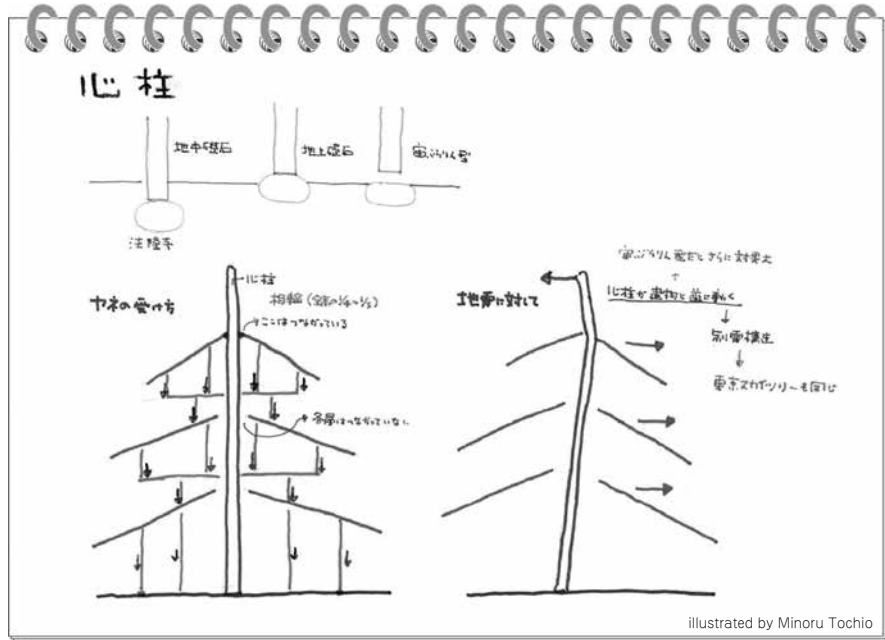
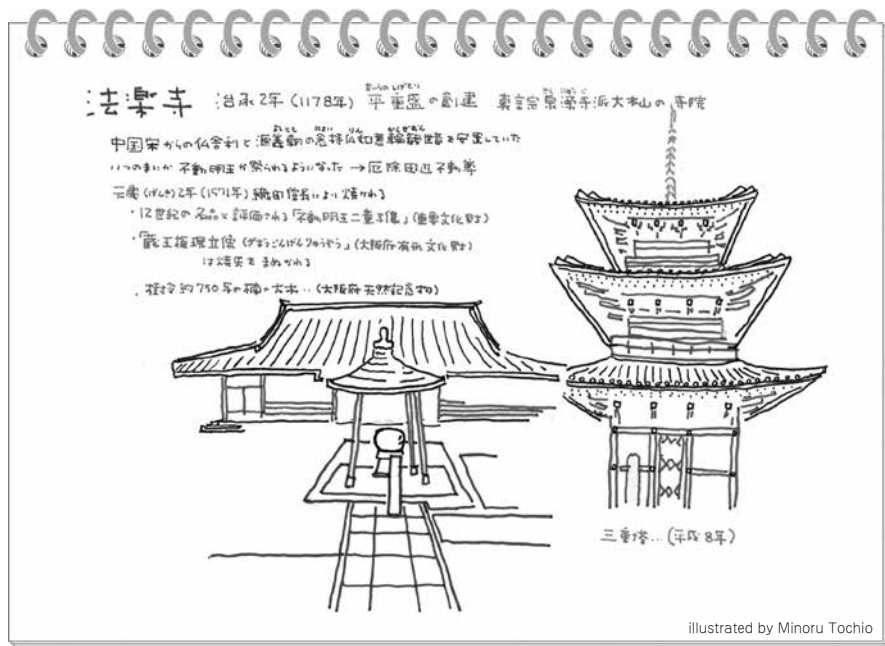
法楽寺の案内人・砂田 円さん 聞き手・西埜彰一氏

山門に移設されました。模擬原爆が投下された日時（1945年7月26日）に合わせて毎年、追悼式が行われています。

ほうらくじ 法楽寺

しんごんしゅうぜんにゆうじ ほ たいほんざんしきんさんこまついん
真言宗泉涌寺派大本山紫金山小松院
ほうらくじ たなべふどうぜん
法楽寺（田辺不動尊）が正しい名称で、昔から「田辺のお不動さん」の名で親しまれています。平家の棟梁・平重盛公が創建しました。創建の趣旨は、保元・平治の乱で戦死した霊を怨親平等の精神で祀るためであり、源為朝の念持仏・如意輪観音菩薩が安置されています。本堂の建物は書院造り（移築）です。梵語（サンスクリット語）研究、人の道を説いた『十善法語』で知られる慈雲尊者（1718～1804）は13歳の時、ここで出家しています。

山門と本堂の間には力強い木組みの三重宝塔が樹齢1000年近い楠の大木と相対し、法楽寺の象徴となっています。この三重宝塔は、平成8年11月26日、三笠宮崇仁親王臨席のもと落慶法要が行わ



れました。通称「平成の三重宝塔」ともいわれ、本尊は金剛界大日如来像、脇侍として江戸時代の作と伝わる不動明王立像と愛染明王坐像があります。塔の高さは約23メートルです。三重塔の基礎構造の心柱は、別格の神秘性をもって位置付けられ、宗教的意味合いだけでなく、耐震性の根源を心柱に求める説や、何十トンもある希少な巨木を運搬・加工させた権力・財力、それらをつなげて、直立させる職人技など、いろいろな要素がある構造建築の仕組みです。基礎の部分で心柱の立て方には3通り（地中礎石型、地上礎石型、宙ぶらりん型）あります。心柱と塔の小屋組みは、三層の屋根の頂上部ただ1カ所だけ接して、1～2層

では接点を持ちません。同じ太い柱でも、大黒柱とは似て非なるものです。また境内には、書家で恩賜賞受賞作家の小坂奇石の作品400点余りを収蔵している「リーヴスギャラリー小坂奇石記念館」があります。案内をしていただいたのは、ここの学芸員の砂田 円さんです。本堂裏側には樹齢3～400年の松の大木のある庭園と茶室「法雲庵」があり趣のある空間となっています。（完）

引用・参考文献

- 1) 東住吉100物語：大阪市東住吉区役所、2021.
 - 2) 東住吉区の都市景観資源紹介：大阪市都市計画局、2019.
- （文責・写真 北村ひとみ）